

臨床用ポリグラフ一式

仕様書

令和 8 年 2 月

奈良県総合医療センター

(調達物品の構成内容)

機器名：臨床用ポリグラフ 一式

(内訳)

品名	数量
臨床用ポリグラフ	1
本体	1
コントローラ本体	1
本体用搭載台車	1
21インチLCD	2
データアクイジションユニット	1
入力アンプ用ベッドサイドモニタ	1
バッテリーパック	1
入力ユニット接続ケーブル	1
ホルダアダプタ	1
キーボード	1
キーボード用中継コード	1
キーボード	1
キーボード用中継コード	1
ホルダアダプタ	1
サブモニタ出力ユニット	2
光ケーブル	2
アイソレーショントランス	1
サウンド出力ケーブル	1
ECG中継コード(10電極)	1
SpO2中継コード(2.5m)	1
フィンガープローブ(1.6m)	1
成人用中継エアホース(3.5m)	1
成人用カフ(標準)	1
血圧中継コード(3.5m) (メリットメディカル用)	1
血圧中継コード(エドワーズ用)	1
CO中継コード(2m)	1
ECG/BP出力ケーブル	1
ディスポオキシプローブ	1
成人用ディスポカフ(標準)	1
設置調整費	1
諸部材一式	1
LaserJet Enterprise Color M554dn	1
パソコン用2.0chスピーカー	1
HDCP対応DVIフレームシンクロナイザ	2
UPS	1
LAN、TAP、消耗資材等の諸部材費	1
技術料	2
通線作業一式	1

(調達物品に備えるべき技術的要件)

## 1 入力部

- 1-1 測定項目は標準 12 誘導心電図 (標準表示/カブレラ表示)、観血血圧×7チャネル、熱希釈式心拍出量、非観血式血圧、経皮的動脈血酸素飽和度(SpO2)×2ch、呼吸曲線 (インピーダンス式/サミスタ方式/CO2 方式)、体温×4ch、BIS、CO2 が可能であること。
- 1-2 BIS, CO2 の測定は数値表示だけでなく、波形表示も可能であること。
- 1-3 導出 18 誘導心電図が計測可能であること。
- 1-4 入力部が取り外し可能でモニタとしても運用可能であること。
- 1-5 対応のベッドサイドモニタと LAN接続することにより、ベッドサイドモニタから ECG/BP 波形を入力することが可能なこと。

## 2 システム部

- 2-1 ハードディスクは RAID-1 システムを採用しており、1TB 以上の容量を有していること。

## 3 表示部

- 3-1 本体波形表示用に解像度 1600×1200ドット以上、21 型以上のカラー液晶ディスプレイを 2 基または 3 基装備していること。
- 3-2 波形表示は実寸が可能であり、任意に 2 倍までのサイズ (Ratio)変更が行えること。
- 3-3 ウェブディスプレイにはリアルタイム波形を全画面波形表示または 3 分割表示が可能で、それぞれの画面に最大 64 チャネルの波形表示が可能であること。
- 3-4 各波形表示ウィンドウはマウス操作により表示エリアの拡大、縮小が随時可能であること。
- 3-5 標準 12 誘導心電図、導出 18 誘導心電図表示は四肢誘導 6 チャネルと胸部誘導 6 チャネル (12 チャネル) の分割表示が可能であること。
- 3-6 標準 12 誘導心電図、導出 18 誘導心電図表示は標準表示とカブレラ表示の切り替えが可能であること。
- 3-7 計測値の表示は 6 種以上のデータを画面の上下左右の任意の位置に表示できること。
- 3-8 波形画面のレイアウトは 8 画面以上有しており、レイアウト変更が可能であること。
- 3-9 モニタのグリッド表示は波形レイアウトごとに設定できること。
- 3-10 掃引速度は、6.25、12.5、25、50、100、150、200、400mm/sec の切り替えが可能であること。
- 3-11 コンディションごとに血圧データ、弁口面積情報、Oxy 情報、血管抵抗の比較ができること。
- 3-12 SpO2 の信号信頼性を示す SQI 値、測定部位の循環状態を示す PI 値を表示できること

## 4 記録部

- 4-1 レザプリンタでファイリングした波形を印刷できること。
- 4-2 ファイリングした波形の印刷範囲がモニタに表示できること。

## 5 操作部

- 5-1 システムの操作は専用キーボード、フルキーボードおよびマウスを併用できること。
- 5-2 ベッドレールへの固定が可能な遠隔操作用キーボードを有し、圧解析、CO測定、記録およびタイマー操作、イベント波形取込、表示波形切換の操作が可能であること。
- 5-3 専用キーボードに血圧のサブサイトキーを有すること。

## 6 解析、計測機能部

- 6-1 血圧解析は1心拍毎のリアルタイム方式（リアルタイム解析表示）とバッチ処理方式（取り込んだデータを解析する）が可能なこと。
- 6-2 血圧解析項目は心房波（a波、v波、平均圧）、心室波（収縮期圧、拡張期初期圧、拡張期末期圧）、動脈圧（収縮期圧、拡張期圧、平均圧）であり、弁口面積演算が可能であること。
- 6-3 心室圧測定をすることにより、拡張期指標である $-\max dp/dt$ 、 $\tau$ 解析が行えること。
- 6-4 冠動脈狭窄部の末梢の血圧を測定することにより、FFRmyo（心筋部分血流予備量）をリアルタイムに演算できること。
- 6-5 12誘導心電図のST変位をリアルタイムに解析可能で、トレンド表示出来ること。
- 6-6 12誘導心電図の基準波形は画面上に静止表示が可能で、ST変位計測点を表示できること。
- 6-7 導出18誘導心電図のST変位をリアルタイムに解析可能で、変化をトレンド表示出来ること。
- 6-8 導出18誘導心電図の基準波形は画面上に静止表示が可能で、ST変位計測点を表示できること。
- 6-9 12誘導心電図、導出18誘導心電図解析を行うことにより、QRS幅解析が行えること。
- 6-10 動脈血酸素飽和度演算（オキシメトリ）、血管抵抗演算が可能であること。
- 6-11 動脈血酸素飽和度演算ではシェーマ表示、シェーマからの入力が可能なこと。
- 6-12 計測用のキャリブは時間、振幅および血圧波形計測（最高/最低/平均）が可能であること。
- 6-13 タイマーは最高3つの並行した計測が可能で、リレ動作やダウンカウントが可能であること。
- 6-14 解析レビュー時に1拍毎の解析値を見ながら編集することが可能であること。
- 6-15 心内心電図自動解析機能を有し、A-H, H-V, A-A, PPIとペーシングから任意に設定された波形までの時間を計測できること。
- 6-16 12誘導心電図、導出18誘導心電図にてペースマップ一致率計測機能を有すること。
- 6-17 AR Indexの表示が可能なこと。
- 6-18 Systolic Area Index(SAI)の表示が可能なこと。

## 7 ファイリング部

- 7-1 検査開始から終了までのすべての波形を自動的かつ連続的にハードディスクに保存できること。
- 7-2 イベント時の情報は検査に合わせてソートが可能である。

## 8 データ通信部

- 8-1 院内の生体情報システムとバイタル連携が可能であること。 以上